十勝川千代田分流堰魚道検討委員会 ＮＥＷＳ

第１回十勝川千代田分流堰魚道検討委員会が、以下のとおり開催されました。

開催日時：平成 13 年 9 月 17 日（月）
現地視察 13:15～14:35　検討委員会：14:45～16:45
現地視察：千代田展望台（十勝川左岸旧道道）、新水路右岸高水敷（分流堰建設予定箇所）
開催場所：幕別町百年記念ホール　講堂

検討委員会には、委員全員（１０名）が出席したほかに、１２名の一般傍聴者と報道関係２社の取材がありました。

検討委員会前に、現地視察を千代田展望台、新水路右岸高水敷で行いました。

委員会では委員会の設立趣意、委員会設置要領、委員会運営要領について委員の承諾をいただき、委員長として北海道大学の藤田教授が選出されました。その後、事務局から千代田新水路事業、千代田分流堰魚道計画の説明をし、意見交換を行いました。

＜十勝川千代田分流堰魚道検討委員会の趣旨＞

千代田分流堰に伴い新設される魚道について、技術的検討、モニタリング計画の検討を行い、帯広開発建設部長に提言する。

＜十勝川千代田分流堰魚道検討委員会の委員名簿＞

委員は下記のとおり、河川工学、魚類などの専門家、市民団体、漁業関係者等の方々の１０名です。

敬称略：五十音順

氏　名	所　　属
板垣　　博	十勝管内漁業協同組合長会 会長
井上　　聰	社団法人 北海道栽培漁業振興公社 常勤技術顧問
太田　　昇	帯広 NPO28 サロン 専務理事
小嶋　　孝	社団法人 十勝釧路管内さけます増殖事業協会 会長
鈴木　淳志	東京農業大学 生物産業学部生物生産学科 助教授
中村　禧夫	十勝川改修工事対策協議会 会長
藤田　睦博	北海道大学 大学院工学研究科 教授
藤巻　裕蔵	帯広畜産大学 畜産学部畜産環境科学科 教授
藤本　長章	十勝エコロジーパーク推進協議会 副会長
眞山　　紘	独立行政法人 さけ・ます資源管理センター 生物生態研究室長

＜第１回十勝川千代田分流堰魚道検討委員会議事要旨＞

○藤　田　：　計画の魚道が完成しても、千代田堰堤の魚道はそのまま使うのか。
○事務局　：　そのままということで考えている。
○藤　巻　：　高水敷の魚道はどの程度自然に近くなるのか。
○事務局　：　基本的には水路内に石などを配置して多自然型のような魚道で考えている。
○藤　田　：　魚道を考える場合設計マニュアルがあるのか。
○事務局　：　国土開発技術センター等の参考資料は幾つかある。
○鈴　木　：　北海道の河川は冬季は結氷するので、本州の魚道とは違う検討をして頂きたい。
○藤　田　：　魚道は冬の間も魚は上っていると考えていいのか。
○事務局　：　高水敷魚道は小さい底生魚等が越冬することも考えられる。
○藤　田　：　魚道の検討には水深等の問題も出てくる。
○井　上　：　上流まで上げるには魚の行動と習性を利用したことを考えた魚道の対策が必要でないか。
○太　田　：　売買川では本州の魚道の改良型を使用しているので、そのような検討も必要である。いろんな魚が上れるようにするためには、いろんな場所を工夫する必要がある。
○事務局　：　堰横の魚道を階段式にすると、小型の魚が上れないだろうということで、階段式魚道の下の所に非越流部みたいなものを作った方が良いかと考えている。高水敷魚道は階段、ステップはなるべく設けないで上らせればと考えている。売買川では変形タイプを使っていると聞いている。
○藤　田　：　堰横と高水敷の魚道が両方開いている時は、魚はどちらを使うのか。
○事務局　：　堰横の魚道がメインになるのではないかと考えている。
○藤　田　：　高水敷魚道にたくさん上ってもらう工夫はないか。
○眞　山　：　魚は魚道の居心地が悪いとすぐに昇るし、居心地が良いとなかなか昇らない。高水敷の魚道を多自然型で良いものを作れば作るほど、昇りにくくなると思う。
○眞　山　：　階段式魚道では昇る魚が限定されてしまう。洪水時にどの程度サケが上流に昇るのか検討が必要である。
○眞　山　：　現在は千代田堰堤より上流でのサケの稚魚放流を行っているのは、札内事業場だけであり、資料にあるような放流をしていたのはもう、10 年位前である。
○太　田　：　サケの稚魚放流は学校や民間でも行っているので、資料として必要である。
○事務局　：　眞山委員からご指摘ありました資料は訂正します。また、太田委員からの意見については、調べて資料を用意します。
○藤　巻　：　完成後魚道で一般の人が釣りをすることが出来るのか。
○事務局　：　その辺については、エコロジーパークの公園計画の中で議論して頂きたい。
○藤　田　：　堰横と高水敷の 2 種類の魚道を作るという基本計画に関しては宜しいか。
○各委員　：　特に意見なし。
○鈴　木　：　魚道完成後の効果を検証するためには、魚道が出来る前からの魚類の調査データが必要になってくる。
○事務局　：　次回の委員会までには検討して、提案したいと考えている。
○小　嶋　：　十勝川と似た川の魚道の事例があれば、次回の委員会で見せてもらいたい。
○事務局　：　石狩川の花園頭首工、最上川等の事例を調べます。
○藤　巻　：　分流堰上流部分には止水域が出来るが、ここの水質はどうなるのか。
○事務局　：　魚道の方でかなり水を取る。また、堰上流は水当たり部となるため水の対流が考えられるの

で著しく悪くはならないと考えている。高水敷魚道は流速も遅く、水深も浅いので、水温上昇で少し悪くなるのではないかという心配がある。

○藤　田　：　堰横と高水敷魚道で合わせてどの位の流量を流すのか。

○事務局　：　堰横の魚道には、呼び水水路合わせて 0.3 ～ 2.5m^3/ｓ位、高水敷魚道は、0.1 ～0.76m^3/s 位を想定している。合わせて 0.4～ 3.3m^3/ｓ位を考えている。高水敷魚道の水質がどの程度になるかというのは、次回までに用意したい。

○井　上　：　新低水路は春先でも逆流しないか。魚道の計画流量では。

○事務局　：　新低水路の下流の所は、ある程度現河道のバックは考えられる

○藤　巻　：　年に何回か堰を開けて水を流すのは、川全体の水位との関係なのか、時期を決めてやるのか。

○事務局　：　水位です。過去のデータで大体、年に 3～4 回位と考えている。

○藤　巻　：　時期的に大体いつ頃になるのか。

○事務局　：　5 月春先の融雪の時期に 1 回夏水、台風時期等が考えられる。

○藤　巻　：　水を流さない時期は礫地になり、そういう所でチドリ類が繁殖する。繁殖期に新水路に流してしまうと、巣が流されてしまうので流す時期を考慮する必要があると思う。

○事務局　：　基本的には 400m^3/ｓを越えたら堰を開ける運用になると考えている。

○井　上　：　例えば、過去 2～3 年の融雪時期に、どの位の河川水位・流量で確率はどの程度であるのかという事が分からないのですか。

○事務局　：　1971 年～1997 年までの平均で、年間では 9.9 日です。

○井　上　：　400m^3/ｓになると今のような逆流現象が起きるのか。

○事務局　：　400m^3/ｓを越えますと堰のゲートを開きます。

○鈴　木　：　新低水路に土砂堆積物がかなり溜まって、河川の魚道が埋まってしまう可能性は考えられないか。

○藤　田　：　魚道への流入土砂はどの様に見積もっているのか。

○事務局　：　スクリーンを設けて大きいゴミは入らないような事で考えております。細かな土砂を全部止めるのは難しいと考えております。

○藤　田　：　浮遊砂はだいぶ多いのか。

○事務局　：　平均粒径は 10mm 程度位のものが流れています。

○事務局　：　土砂の堆積等を考慮して、堰ゲートを開けた時にフラッシュ等をさせることを考慮しています。

○藤　田　：　水の勢いで流してしまうという事を考えているということか。

○事務局　：　そうです。

―以上―

第１回　十勝川千代田分流堰魚道検討委員会

開催日時：平成１３年９月１７日 14:45～

開催場所：幕別町百年記念ホール講堂

議　事　次　第

１．開　　会

２．挨　　拶　　帯広開発建設次長

３．十勝川千代田分流堰魚道検討委員会について　　帯広開発建設部
治水課長

（１）委員会の設立趣旨

（２）委員会設置要領（案）

（３）委員紹介及び委員長の選出

４．議　　事　（議事進行：委員長）

（１）委員会の運営要領について

（２）千代田新水路事業について

（３）千代田分流堰魚道計画について

（４）意見交換

（５）その他

５．閉　　会

別紙ー２

第１回　十勝川千代田魚道検討委員会　行程表

平成１３年９月１７日（月）

時　刻	項　　目	備　　考
13:15	帯広駅北口　集合	
	バス移動	移動用にバスを運行します。　帯広駅前～千代田展望台
	現地視察１	千代田展望台（十勝川左岸旧道道箇所）
	バス移動	千代田展望台～新水路右岸高水敷
	現地視察２	新水路右岸高水敷（分流堰予定箇所付近）
	バス移動	新水路右岸高水敷～幕別町百年記念ホール
14:35	委員会会場到着	幕別町百年記念ホール
14:45	委員会開始	現地視察の状況により、開始時間は多少前後することがあります
16:45	委員会終了（予定）	
	バス移動	幕別町百年記念ホール～帯広駅前
17:15	帯広駅前　着　解散	

第１回　十勝川千代田分流堰魚道検討委員会出席者名簿

平成１３年９月１７日（月）１４時４５分～１６時４５分
幕別町百年記念ホール講堂

区　分	氏　　名	所　　属	出　欠
委　員	板垣　　博	十勝管内漁業協同組合長会会長	○
〃	井上　　聰	社団法人北海道栽培漁業振興公社技術顧問	○
〃	太田　　昇	帯広NPO28サロン専務理事	○
〃	小嶋　　孝	社団法人十勝釧路管内さけます増殖事業協会会長	○
〃	鈴木　淳志	東京農業大学生物産業学部生物生産学科助教授	○
〃	中村　禧夫	十勝川改修工事対策協議会会長	○
〃	藤田　睦博	北海道大学大学院工学研究科教授	○
〃	藤巻　裕蔵	帯広畜産大学畜産環境科学科教授	○
〃	藤本　長章	十勝エコロジーパーク推進協議会副会長	○
〃	眞山　　紘	独立行政法人さけ・ます資源管理センター調査研究課室長	○
（委員名：五十音順・敬称略）			
事務局	山口　登美男	帯広開発建設部次長（河川・道路）	○
〃	小林　幹男	帯広開発建設部治水課長	○
〃	佐藤　敏宏	帯広開発建設部治水課河川環境管理官	○
〃	横道　雅己	帯広開発建設部治水課治水専門官	○
〃	嶋宮　政樹	帯広開発建設部治水課河川環境係長	○
〃	川岸　秀敏	帯広開発建設部治水課計画係技官	○
〃	山下　彰司	帯広開発建設部帯広河川事務所副所長	○
〃	福田　義昭	帯広開発建設部帯広河川事務所計画係長	×
〃	高橋　賢司	帯広開発建設部帯広河川事務所計画係技官	○
〃	武井　正明	帯広開発建設部帯広河川事務所調整係主任	○
〃	吉岡　紘治	財団法人河川環境管理財団北海道事務所長	○
〃	佐々木勝治	財団法人河川環境管理財団北海道事務所次長	○
〃	杉浦　幸雄	財団法人河川環境管理財団帯広支所長	○
〃	工藤　　喬	財団法人河川環境管理財団北海道事務所調査役	○
〃	野内　忠美	財団法人河川環境管理財団北海道事務所調査員	○
〃	谷　　拓也	財団法人河川環境管理財団北海道事務所技術員	○
〃	藏重　俊夫	財団法人河川環境管理財団北海道事務所	○
〃	佐藤　信雄	八千代エンジニアリング	○
〃	長部　孝彦	八千代エンジニアリング	○

十勝川千代田分流堰魚道検討委員会設置要領

（趣旨）

第１条　千代田分流堰に伴い新設される魚道について、技術的検討を行うため、帯広開発建設部長は、「十勝川千代田分流堰魚道検討委員会」（以下「委員会」という。）を設置する。

（委員会の事務）

第２条　委員会は、千代田分流堰に伴い新設される魚道について、技術的検討、モニタリング計画の検討を行い、帯広開発建設部長に提言する。

（委員会の委員及び組織）

第３条　委員は、学識経験者及び地域に精通する有識者の中から帯広開発建設部が委嘱する。

２　地域の実情を適切に反映した委員会運営とするため、適宜、地域に精通した委員を委嘱することができる。

３　委員の任期は、２年以内とする。ただし、再任することができる。

４　委員会には委員長を置き、委員の互選によりこれを定める。

５　委員長は、会務を総理する。

（運営等）

第４条　委員長は、委員を招集する。

２　委員会は、委員の２分の１以上の出席をもって成立する。

３　委員会の議事は、原則として公開で行うものとし、公開の方法は委員長が委員会に諮って定める。

（庶務）

第５条　委員会の庶務は、帯広開発建設部治水課が行う。

（雑則）

第６条　この規約に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附則

この要領は、平成１３年９月１７日から施行する。

十勝川千代田分流堰魚道検討委員会運営要領

本運営要領は、十勝川千代田分流堰魚道検討委員会設置要領（平成１３年９月１７日付け、以下設置要領という。）に基づき、十勝川千代田分流堰魚道検討委員会（以下委員会という。）の運営に関し必要な事項を定めるものとする。

１　委員会の運営に関する事項

（１）会議の記録

事務局は、会議の議事内容について、その議事録を作成し、委員長及び出席した委員の確認を得なければならない。

（２）会議の公開

会議については、公開で審議する。なお、円滑な審議を行うため傍聴者は会議中に意見を述べることはできない。

（３）会議資料等の公開

会議資料は公開とし、事務局は閲覧が可能となるよう措置をとる。ただし、個人情報等公開することが適当でないと委員会で判断したものについては、公開しないものとする。

２　運営要領の見直し

本運営要領は、必要に応じて見直すことができるものとする。

３　施行期日

本運営要領は、平成１３年９月１７日から施行する。